

01 トイレ掃除

使うたびに水を流しているのに、なぜ汚れが付着してしまうのでしょうか？

あるテレビ番組で「熱湯を使ったトイレ掃除」を紹介したところ、急激な温度変化によりトイレの表面にひびが入り、トイレが破損する事故が起ったため、あわてて「トイレ掃除には熱湯を使わないように」と訂正をしたことがありました。

トイレ掃除をサボっていると、いつの間にか落ちにくい黄ばみや黒ずみ、水あかが付着し、ブラシでこすった程度では落ちなくなってしまいます。水洗トイレで、使うたびにきちんと水を流していくのに、なぜこのような汚れが付着してしまうのでしょうか。

黄ばみの原因は尿石で、強固な結晶になったものです。便器表面を流れた水分が乾いた後、水に溶けていたカルシウムやマグネシウムなどが残ったものが水あかですが、そこに空気中のホコリなどが付着して黒ずんだ汚れになる場合があります。

またその他にも、ヌメリやカビなどが水たまり周辺や、ふち裏の水が流れ出る部分に付着します。配管など金属部分にさびが発生している場合は、流れ出したさびにより赤茶色の汚れになることもあります。

このような汚れはトイレの見baumを悪くしたり、臭いの原因になったりします。汚れがあまりひどくない場合は中性洗剤で落とすことができますが、汚れがひどくなると汚れに応じた洗浄剤で掃除を行う必要があります。黄ばみや黒ずみの成分は、リン酸カルシウムやシリカが主成分なので、酸性洗浄剤で分解して汚れを落とします。

温水洗浄便座は脱臭装置が付いているものが多いため、掃除後、洗浄剤が気化し、脱臭装置の中に入り故障の原因となることがあります。掃除後は早め（3分以内）に洗い流すとともに、洗浄剤を確実にふき取り、便座やふたはしばらく開けた

ままにしておきます。

水あかは洗浄剤ではなかなか落ちません。汚れがそれほどひどくない場合は液体クレンザーを用います。ひどい場合はメラミン製スポンジや紙やすりなどでこすりますが、強くこすり過ぎるとトイレに傷が入る場合があります。

さびによる汚れは還元型漂白剤を使うと落とすことが出来ます。

ただし、最近のトイレには、あらかじめ汚れを付きにくくするコーティングをしたものや、樹脂製の部品が多数使われている場合があるため、洗浄剤の種類によっては樹脂製部品の光沢を失せたり、ひび割れを起こしたりする場合があります。このため、トイレ掃除をするときには、トイレの説明書や注意書きをよく読み、洗浄剤を使用する部分の材質に気をつける必要があります。

トイレ用洗浄剤も酸性のものと塩素系のものがあり、「ませるな危険」の表示がある洗浄剤について、この2種類の洗浄剤を混ぜて使用すると有毒な塩素ガスが発生し、非常に危険です。同時に使用したつもりはなくとも、酸性洗浄剤を使用後、塩素系洗浄剤などで漂白した場合も、酸性洗浄剤が残っている場合があり、同時に使用したのと同じようになります。

異なる種類の洗浄剤を使用するときは、先に使った洗浄剤をしっかりと洗い流してから、次の洗浄剤を使うようにしてください。

一度汚れてしまうと、なかなか落ちにくいトイレの汚れ。「汚れになる前の掃除」が大切です。汚したことや汚れに気が付いたら、トイレットペーパー等でさっとふき取るようにしましょう。

（平成19年4月）

